



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

しらこぼと

2004.9

No.245

日本野鳥の会 埼玉県支部

S H I R A K O B A T O



宮古島はすごい！

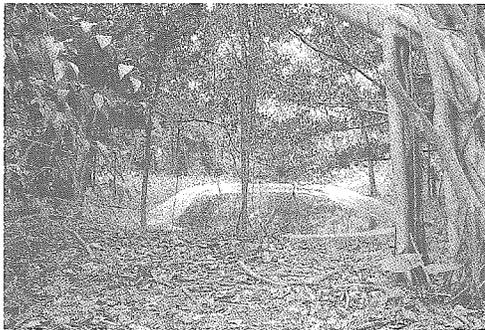
山部 直喜 (三郷市)

「宮古島の大野山林では、サンコウチョウ>ヒヨドリ>アカショウビン>オオクイナの順で個体数が多いような気がするな」。これは昨年、宮古島に鳥行した先輩の話だ。半信半疑で聞いていたが、そのときのビデオを見せてもらおうと、確かに1シーンの中に数羽のサンコウチョウが飛び回っていた。『日本の探鳥地 (西日本編)』1991にも「5～8月に林道をゆっくり歩けば、アカショウビン、サンコウチョウ、コノハズクなどが見られるだろう」と書かれていた。「よーし！」と思わず立ち上がったその勢いで、今年の7月初め、2泊3日で行ってきた。

大野山林で

まずはここ。ここだけでも十分堪能できる。空港から車で10分、駐車場からポイントの水場まで歩いて5分。3日間とも顔を出した。今年のバーダー7月号に「…アカショウビンやサンコウチョウがごく普通にいる。…水場で待っていればお目当ての鳥は向こうからどんだんやって来てくれる…」とまで書かれているのは、おそらくここだ。以下は、私のフィールドノートからのそのままの抜粋だ。

【水場】さかんにサンコウチョウの囀り。引っ切り無しに♀、その間に♂。アイリングのブルーは蛍光色？時々、頭の薄い個体。水浴びは腹打ち飛び込みだ。完璧な♂の水浴びは実に優雅。天の羽衣、天女の舞い。あっ、奴はオスだ。アカショウビンの水浴びは45度でダイビング。飛び込む音はジュボ。2羽が鳴きかわしている。黒目がある。虹彩は茶色。5mの高さにある横枝で、大きいカタツムリを枝に叩き付ける、パジャ、パジャ。真下にいたEさんはビデオのピントが合わず苦笑。おっ、あれはオオクイナの幼鳥？



大野山林 (水場)

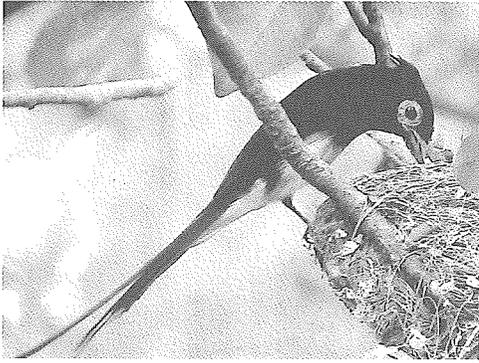


【東屋】前方ではサンコウチョウの♂♀が雛に餌運び、目の前ではリュウキュウコノハズク、後方ではアカショウビンが採餌、餌はおそらく地上に出てきたばかりのセミ。頭上に時々空港に離着陸するジェット機と鳴きながら飛ぶホトトギス。

【林道】Sさんが赤色型のリュウキュウコノハズクを見つける。キンバト発見！目の前の枝。嘴の朱色の鮮やかさ、翼のエメラルドグリーン、ハトで初めて美しいと思った。鳴くときは嘴を細めにあけて実に上品。地上で採餌中に、地元の人が散歩で脇を通るも飛び立たず。その距離4m。

ホテルの回りでは

泊まったのは東急リゾートというホテルだ。



サンコウチョウ (海老原美夫)

ホテルでも気が抜けない。鳥影が濃いからだ。玄関を出たところでリュウキュウツバメが飛んでいるし、こちらのメジロの脇腹に茶色がないのもここで確かめられる。すぐ前のサトウキビ畑がミフズラのポイントだ。早朝、あちらこちらで♀♀が畑を走り回っていた。サトウキビ畑に入るまでにサンコウチョウも盛んに囀っている。今回はオオクイナの死体まで見付けた人もいた。

しかし、こちらの暑さを実感するのはホテルを出たときだ。おまけに、ねっとりまとわりつくような湿度の高さにレンズの表面が結露してしまう。クマゼミの大合唱は大好きだ。

海岸部でも

まずは北端の池間島に向かう。途中の池間大橋からエリグロアジサシ、ベニアジサシを押さえて池間湿原へ。

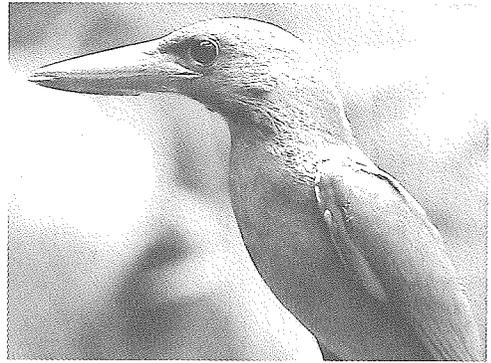
リュウキュウヨシゴイが左手前から右前方へ飛ぶ。目先が赤い婚姻色になっているところまでよく見えた。ムラサキサギの繁殖も確認することができた。

島尻漁港では、オオアジサシのオールバックのヘアスタイルを確認できた。

東平安名崎(ひがしへんなぎ)では遥か彼方にクロアジサシ。東平安名崎に向かう道ばたでは、ズグロミゾゴイやズアカアオバトも出て、島中まったく気が抜けない。

おまけ

この特集は、『海老原美夫の野鳥写真館』
<http://www23.tok2.com/home/ebi/>と並行



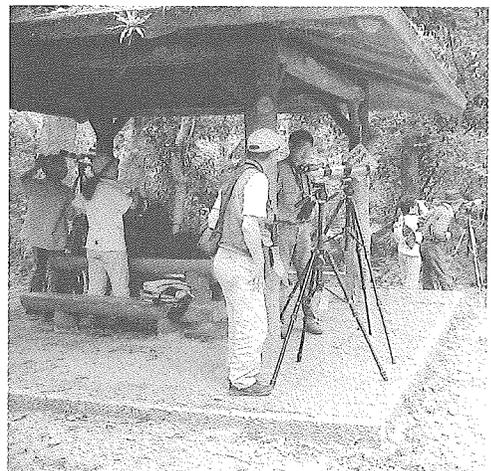
アカショウビン (海老原美夫)

して読んで頂きたい。『宮古島はすごい!』がより伝わってくる。〔日本国内の鳥たちの展示室〕の中の〔2004/07 宮古島 アカショウビンなど〕と〔2003/07 沖縄県宮古島〕を今すぐクリック。今回出現した鳥のリストも載っている。

残念なこともあった。台風の影響かもしれないが、エメラルドグリーンの海に浮かぶ白い発泡スチロールの多さだ。近隣の国からのものらしいが、このままでは大変なことになりそうである。

なお蛇足だが、土産是那覇空港の出発ロビーから一度出たところに店がどっさり集まっており、ここで全てが間に合う。私のお薦めは、搭乗口から出てすぐの店で売っている唐芋レアケーキだ。

蛇足の追加。空弁(そらべん)は「若狭の浜焼き鯖寿司」が一番だ。羽田空港搭乗口内の弁当屋で販売している。うまい。



大野山林 (東屋)

白馬山麓・春の輝き

T.Kaneko (桶川市)

深谷市在住の友人O氏に誘われ、1泊2日の白馬自然ウォッチングに参加した。5月8日(土)午前7時半過ぎ、参加者一行を乗せ曇り空の下、熊谷駅前をバスは出発。途中、行程説明と参加者の自己紹介があり、リーダー陣より白馬地域の特徴として太平洋側と日本海側に分布する両方の植物が観られることがあげられた。バスは関越道から上信越道に入り、車窓から見えた、ニセアカシアの花の白色が印象的であった。長野県に入ってから青空になり、居谷里湿原に到着。周囲の若葉が輝く湿原を散策しミツガシワ、リュウキンカ、ミズバショウ、ザゼンソウ、ノジコ、オオルリ等を観察。湿原から定麟寺に移動し、昼食後、定麟寺横の野原で春の花を観察。野原はサクラスミレ、チシオスミレ、タチツボスミレ、葉が丸まっているアオイスミレ等スミレ類のオンパレード状態だった。リーダー陣から日本産のスミレだけで80種程あると聞き、形や色の微妙な多彩さにスミレへの興味が湧いてきた。その後、みそらの田圃に移動



白馬探鳥会(居谷里湿原にて)

し再度観察。田植え作業の風景を見ながら周囲を散策すると、正面に白馬三山、右奥に雨飾山が見え、しばらくO氏と山の思い出ばなしになってしまった。宿に向かう途中、姫川ダム周辺を観察。クルマミの花を初めて見た。宿に到着後、予想外の温泉に浸かることができ、夕食では大いに飲み、談笑し、就寝となった。

翌朝、宿の周辺を散歩。宿に戻り、食堂の窓から数種の野鳥を観察した。初めてアカゲラを見た。宿を出発し浅間山林道に着いたところで霧雨となり、霧雨に濡れる若葉を見ながらの散策となった。午後は姫川源流から親海湿原への散策となり、雨の中をバスに戻り帰路に就いた。



姉妹競作(青木里美・夏美 さいたま市)



野鳥情報

岩槻市文化公園 ◇6月4日、村国池でカルガモ成鳥1羽、ヒナ9羽。コジュケイが樹上で鳴き、ツバメ親子飛び回り、ウグイスの声。7月12日、コムドリ約10羽、カワウ、カイツブリ、カルガモ、ゴイサギ、アオサギ、チュウサギ、コサギ、コジュケイ、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、コゲラ、ハクセキレイ、カワラヒワ、シジュウカラ、メジロ、ムクドリ、スズメ、ハシボソガラス、ハシブトガラス計22種。スズメ、カルガモ、コジュケイ、シジュウカラは子連れ。7月21日、コムドリ約40羽が散在。文化公園南端の元荒川対岸の水面でコブハクチョウ1羽。7月26日、岩槻祭りの花火打上げで驚いて逃げ去ったかと思っただが、減ったもののコムドリ約10羽、コブハクチョウも健在（鈴木紀雄）。

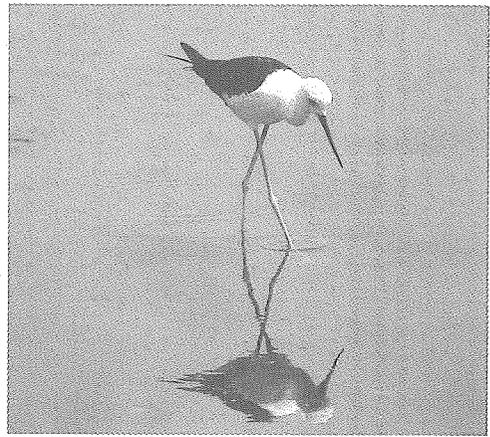
岩槻市大戸 ◇6月5日、カルガモ親子2組確認。6月10日、葦につかまってさえずるコヨシキリ1羽。7月17日、田んぼの中の本の灌木にダイサギ、チュウサギ、コサギが1羽ずついて、比較できて面白かった。道沿いにキジ♀が子連れで登場。ヒナ達は道脇の草むらで「ピーピー」と大騒ぎ（鈴木紀雄）。

岩槻市太田 ◇6月10日午後11時30分頃、遠くから「ホーホー」とアオバズクの声。鳴きやんでしまい、場所の確認できず（鈴木紀雄）。

春日部市谷原新田 ◇6月5日午後4時47分、水田の畦でセグロセキレイ1羽さえずる。複雑だが、きれいな声だ（石川敏男）。

◇7月7日、道路北側の水田から南側の水田に道路を横切るバン成鳥1羽。翌日同所でバンのヒナ1羽も横切ったが、水田手前の側溝が越えられず、ウロウロ（鈴木紀雄）。

春日部市一ノ割 ◇6月5日午後3時5分過ぎ、春日部市内西部浄水場の南側水田でバン1羽、稲の丈は10cm+になっており、体が隠れる状態だったが、赤い額を遠目でも確認できた（石川敏男）。



セイタカシギ（上尾市・長谷川訓寿）

蓮田市黒浜 ◇6月12日午後4時頃、上沼でカイツブリのヒナ4羽に親鳥がしきりに潜っては餌の小魚を与えていた。沼の縁の葦にヨシゴイ1羽。しばらくじっとしていたが、飛び立つ。近くにもう1羽いたらしく、その内2羽で沼上空を飛び回る。2～3m先を飛んでくれた時には、スリムな体がよくわかった。また、キジの卵がいつもの場所にいた。こちらに気づいて、そっと地面に伏せたが、すぐコンパクトになり、目立たなくなったのには驚いた。鳥の情報ではないが、上沼東側の幅の狭い道路上で大きなクモが道を横切っているのを見ていたところ、ベッコウバチ（オオモンクロベッコウ）が飛んできて、クモを襲った。勝負はあっけなくつき、麻痺した自分の3倍位はあるクモを途中1回の休憩を入れ、2m位を一気に引きずって、草むらに消えていった。子供の頃夢中で読んだファーブル昆虫記の世界そのままだった（藤原寛治）。

◇7月6日、上沼でキンクロハジロ♂1羽、帰りそびれたか。カルガモ若鳥2羽。オオタカ若鳥1羽がカラスに追われる。7月7日、休耕田でコチドリ3羽、口を開けて暑そう。7月9日、ムクドリ数十羽の群中にコムドリ数羽。7月21日、コムドリ約10羽（鈴木紀雄）。

越谷市西新井 ◇6月19日午前8時30分、県民健康福祉村公園で公園内の池の上空でコアジサシ6～7羽。元気館前の大きい東屋でスズメ、ムクドリ達が何十個も巣を作っ

てて繁殖していた。西駐車場方面でゴイサギ成鳥、幼鳥を観察。近くでカッコウの鳴き声確認。水田の早苗の中にアオサギ、ダイサギ。公園内でカイツブリ、チョウゲンボウ、ヒヨドリ。毎年、池周辺でオオヨシキリを確認できるが、今年は南西側の葦原で観察(小菅 靖)。

さいたま市桜区大久保 ◇6月8日、B区でカッコウ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市見沼区御蔵 ◇6月10日、上空を舞うオオタカ1羽(鈴木紀雄)。

さいたま市西区ニツ宮 ◇7月16日午前8時頃、自宅庭にコゲラが来ました。梅の木にとまって、しばらく鳴いたり、つついたりしていましたが、いつの間にかいなくなりました。自宅周辺では初めて見ました(美登里)。

菟瀨町小林 ◇7月24日、休耕田でクサシギ1羽、コチドリ約50羽。そろそろシギチのシーズン(鈴木紀雄)。

秩父市定峯 ◇6月5日昼、定峯峠東側の林道でオオルリ1羽、キビタキ2羽、エナガ1羽、ホオジロ2羽、ウグイス多数。林道沿いでクロツグミらしき黒い鳥が目の前を飛んだが確認できず(本多己秀・久文子)。

川越市伊佐沼 ◇6月9日、コアジサシ飛び交う伊佐沼でキンクロハジロ♂1羽(増尾隆)。

渡良瀬遊水地 ◇6月19日、トビ、サシバ、チョウゲンボウ、チュウヒが舞い、ミサゴは木立に。カッコウ、オナガ、コヨシキリ、オオヨシキリ、セッカがにぎやか(鈴木紀雄)。

小鹿野町日尾 ◇6月5日朝、牛首沢でオオルリ♂♀各1羽。♂は枝移り。♀はフライングキャッチで虫を捕え、警戒の声だろう

か、さえずりの様な鳴き方をした。キセキレイが周辺の電線のあちこちでさえずっていた(鈴木 敬)。

川島町小見野 ◇7月18日午後、オオヨシキリが入りしている土手下の葦原でカッコウと思われる雛1羽、仮親よりも大きな頭部が茎の間から見え隠れしていた(鈴木 敬)。

小川町奈良梨 ◇8月1日午後1時25分頃、市野川の森下橋下流でクサシギ1羽。私自身、当地でこの時期としては初認(鈴木 敬)。

野鳥情報をお寄せください

希少種に限らず、その場所では珍しいものやその時期に珍しいもの、あるいは、珍しくはないけれども季節感にあふれた情報、ちょっと変わった行動など、いろいろな情報をお待ちしています。これからは冬鳥の季節。カモ、ツグミ、ジョウビタキ等の初認情報をお待ちしています。特に珍しい鳥じゃなくてもいいんですよ。

明らかに間違いと思われる情報は別にして、原則としてお寄せいただいた情報をそのまま掲載します。ただし、猛禽類については、繁殖等に与える影響を考慮して、時期、季節によっては、お寄せいただいた情報は貴重な資料として活用させていただきますが、掲載を控えさせていただきますことがあります。

珍しい種類の場合は、できるだけ写真や詳しい観察結果なども一緒にお送りください。

常連さん歓迎!! 新人さん大歓迎!! 特に新人さんの場合は、優先的に掲載します。

なお、野鳥情報は、正確を期するため、メール(P.12連絡帳下欄参照)、葉書、手紙、ファックス等の書面でお送りください。

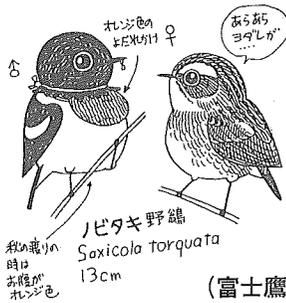
表紙の写真

リュウキュウコノハズク(フクロウ目フクロウ科コノハズク属)

かつてコノハズクの一亜種とされていたが、鳥類目録改訂第6版では、別の種になっている。姿はよく似ている。鳴き声は「コホッ、コホッ」と全く違う。沖縄地方の旅で声を聞くことは多いが、じっくり撮影できたのは、特集記事でも紹介されている今回の宮古島の旅が初めて。道路わきの林にいて、道路の端まで後ずさっても全身が写らない。仕方がないから普通に写したら、顔だけになってしまった。 写真と文：海老原美夫



行事案内



「要予約」と記載してあるもの以外は、予約申し込みの必要はありません。初めての方も、青い腕章をした担当者に遠慮なく声をおかけください。私たちもあなたを探していますので、ご心配なく。参加費は、一般 100 円、会員と中学生以下は 50 円。持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋。もしあれば、双眼鏡などの観察用具も（なくても大丈夫）。

解散時刻は、特に記載のない場合、正午から午後 1 時頃。悪天候のときは中止。小雨決行。できるだけ電車バスなどを使って、指定の集合場所までお出でください。

リーダー研修会（要予約）

期日：9月5日（日）

会場：埼玉県自然学習センター

詳しくは8月号をご覧ください。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：9月18日（土）午後3時～4時ころ

会場：支部事務局108号室

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：9月12日（日）

集合：午前9時30分、秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：11発、または寄居8：49発に乗車。

担当：島田、和田、森本、中里、石井（博）、倉崎、高橋（ふ）、後藤、藤田、栗原、飛田、大澤、新井（巖）

見どころ：今年はほんとに暑かった。その夏もやっと終息して、南へ向かう渡りの鳥たちが立ち寄っていく。いつもの桜並木にツツドリが待っていてくれるかな。

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：9月19日（日）

集合：午前8時15分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ。または午前9時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：楠見、福井、手塚、倉林、渡辺（周）、若林、森（力）、小菅、赤堀、新部

見どころ：暑い暑い夏でした。よく頑張ったごほうびに鳥たちが待っているのかな。秋のお彼岸の頃には鳥たちが、渡りの途中に見沼たんぼに寄り道をする。ツツドリやエゾピタキが見られたらいいな。

シギ・チドリ類県内調査

期日：9月18日（土）

埼玉県支部では、春と秋の2回、独自にシギ・チドリ類の調査を行っています。

とくに下記の地点では、より多くの会員の参加・ご協力をお願いいたします。

◆秋ヶ瀬（さいたま市）

集合：午前9時30分大久保浄水場の北西角近くの土手の上、グラウンド入り口。

担当：石井 智

解散は昼頃の予定。調査のため参加費は不要です。雨天でも行います。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：9月19日（日）

集合：午前9時、東武越生線川角駅前

交通：東武東上線川越8：13→坂戸にて越生線乗り換え8：42発。または寄居7：53→小川町乗り継ぎ、坂戸にて越生線乗り換え。JR川越線大宮7：35→川越にて東武東上線乗り換え。

担当：藤掛、高草木、青山、池永、久保田、志村、増尾、原、佐藤（壮）、杉原、藤澤、山田（義）

見どころ：初秋の高麗川で、モズの♂♀の識

別や高鳴きを楽しみます。そして、高鳴きの七十五日後ころには霜が降ると言う伝えや、彼岸花はなぜ田んぼの周辺に多く植えられているのか等を話しながらの探鳥会です。ぜひご参加ください。

タカの渡り調査

期日：9月23日(木・祝)、25日(土)、26日(日)

恒例の調査です。一日空を眺めているだけで貴重なデータが得られるし、タカ類の知識も勉強できます。初めての方も気軽にどうぞ。雨天(小雨でも)中止。調査のため参加費は不要です。

◆天覧山(飯能市)9月26日(日)

集合：午前9時から正午まで。ご都合のよい時間に山頂展望台へお越しください。近くに水洗トイレあり。

交通：西武池袋線飯能駅から徒歩約30分。

担当：佐久間

他に下記の地点でも調査を行います。

◆小川げんきプラザ本館屋上

(小川町)23日(木)

◆物見山駐車場(東松山市・鳩山町)25日(土)

調査時間は朝から正午過ぎまで、お近くの方はご都合のよい時間にお越しください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：9月26日(日)

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越8:43発、所沢8:36発に乗車

担当：長谷部、藤掛、高草木、中村(祐)、山本(真)、久保田、山本(義)、石光、山田(義)

見どころ：この時季は鳥の種類が少ないので、身近な留鳥たちを中心に見ます。でも油断をしていると、渡りの途中の鳥を見逃してしまうので、注意深く観察をしよう。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：9月26日(日)

集合：午前8時45分、東武伊勢崎線北越谷駅

東口、集合後午前8時50分発エローラ行きバスにて「松伏高校前」下車。または午前9時30分松伏記念公園北駐車場。

担当：田邊、橋口、大塚、神場、吉岡(明)、大塚、小菅、土澤、榎本(建)、野村(弘)、野村(修)

見どころ：赤岩農耕地では、サギが多く見られます。昨年は6種でした。今年は何種見られるか楽しみです。ノビタキやタシギなどのちょっと珍しい鳥や、チョウゲンボウのような、ワシタカの仲間も期待できます。もちろんシラコバトをまだ見ていない人もどうぞ。お待ちしております。

その他：松伏中央公民館と合同開催です。

長野県・戸隠高原探鳥会(要予約)

期日：10月23日(土)～10月24日(日)

集合：23日午前9時00分、長野駅コンコース新幹線改札口を出て右側。

交通：長野新幹線「あさま551号」(東京6:52→大宮7:18→熊谷7:32→本庄早稲田7:43→高崎7:53→長野8:47着)、または「あさま1号」(東京7:28→大宮7:52→長野8:53着)

費用：11,000円の予定(1泊3食、現地バス代、保険料など)。万一過不足の場合は当日精算。集合地までの往復交通費は各自負担。

定員：30名(先着順、県支部会員優先)

申込み：往復はがきに住所、氏名、年齢、性別、電話番号を明記して、菱沼一充

担当：菱沼、北川、藤掛、中里

見どころ：秋の見どころは紅葉とキノコと新そば! おっと鳥のほうもムギマキ、マミチャジナイなどの旅鳥にあえるチャンスです。

注意：宿泊は男女別の相部屋です。個室の用意はできません。



行事報告

4月29日(木、休) 春日部市 内牧公園

参加: 36名 天気: 晴

ダイサギ チュウサギ コサギ カルガモ キジ
コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツバメ
ハクセキレイ タヒバリ ヒヨドリ ツグミ セ
ンダイムシクイ セッカ シジュウカラ メジロ
アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ
カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (26
種) スタート前、池の近くの梢で、アオジが盛ん
にきれいな声でさえぎっていた。公園内の新緑が
美しい林の中で、シメ、シジュウカラ、カワラヒ
ワなどを見ていると、姿は確認できないが、セン
ダイムシクイのさえぎりが聞こえてきた。田んぼ
では、コサギ、チュウサギ、ダイサギの3種が採
餌しており、皆でじっと観察する。その後、タヒ
バリ、コチドリなども見て満足できた。

(吉安一彦)

4月29日(木、休) シギ・チドリ類調査

ボランティア: 29名

青木里美、青木夏美、青木正俊、青木真弓、阿久
津キクエ、阿久津廣、猪狩ミチ子、猪狩善明、石
井智、江浪功、海老原美夫、鬼塚勝靖、久保田忠
資、栗原豊、小荷田行男、小林ますみ、佐久間博
文、品田正雄、清水満、志村佐治、高橋優、時吉
由子、新部泰治、野口幸広、福井恒人、藤掛保司、
室和子、持丸順彰、百瀬修◆◆恒例の調査が、さ
いたま市秋ヶ瀬地区で行われ、結果は『しらこぼ
と』8月号で報告された。

5月2日(日) 加須市 はなさき公園

参加: 50名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ チュ
ウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ
チョウゲンボウ キジ コチドリ キジバト ヒ
バリ ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ
ツグミ オオヨシキリ セッカ キビタキ シジ
ュウカラ アオジ カワラヒワ スズメ ムクド
リ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 前

日と違って変わって寒い朝となった。スタートす
るとすぐコチドリが鮮やかな舞を見せてくれた。
青毛堀川に出ると早速キジが出迎えてくれていた。
植物園に入ると、ジシバリの黄色い花がきれいに
咲いていた。そんな中、ツグミが名残惜しそうに
鳴いていた。アシ原に出るとオオヨシキリとセッ
カをじっくりと観察できた。春爛漫の探鳥会だっ
た。(中里裕一)

5月5日(水、休) 千葉県習志野市 谷津干潟

参加: 8名 天気: 雨

カイツブリ カワウ アマサギ ダイサギ コサ
ギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ
ハシビロガモ パン コチドリ シロチドリ メ
ダイチドリ ダイゼン キョウジョシギ トウネ
ン ハマシギ オバシギ アオアシシギ キアシ
シギ オオソリハシシギ チュウシャクシギ タ
シギ セイタカシギ アカエリヒレアシシギ シ
ロカモメ コアジサシ キジバト ツバメ ヒヨ
ドリ オオヨシキリ カワラヒワ スズメ ハシ
ボソガラス ハシブトガラス (36種) 小雨の中、
8名で出発。潮が引くにつれてシギ・チドリが増
えてきた。圧巻は13羽のアカエリヒレアシシギ。
30分ほどで飛び去ったが、荒天ならではの風景だ
った。埼玉県支部のためにやってきたに違いない!
(杉本秀樹)

5月5日(水、休) 蓮田市 黒浜沼

雨のため中止。

5月9日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 33名 天気: 曇後雨

カワウ ダイサギ コサギ カルガモ オオタカ
キジ コチドリ キジバト コゲラ ヒバリ ツ
バメ イワツバメ キセキレイ ハクセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシ
キリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラ
ヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシ
ブトガラス (26種) 今にも降り出しそうな空模様
の中スタートした。土手に上ると、目の前一杯に
ニセアカシアが咲き誇っている。今年はやっと
早いようだ。ゴルフ場の水路にさしかかるとキジ
が赤い顔を見せてくれた。随所でシジュウカラが
さえぎっている。良く聞くと結構個体差があり、
いろいろな鳴き方をしている。川原に出ると中州

ではコチドリがかわいい姿を見せてくれた。土手に戻ると森の中の大木にオオタカが止まっている。じっとこちらの様子をうかがっているようだ。スコープを向けると飛び去ってしまった。生憎、途中から雨が強くなってきたので、早めに切り上げた。(中里裕一)

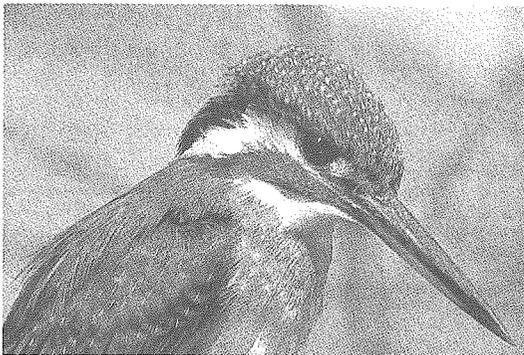
5月16日(日) さいたま市 三室地区
雨のため中止。

5月22日(土)『しらこぼと』袋づめの会
ボランティア：9名

新井浩、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、島田沙織里、島田貴子、志村佐治、藤野富代、百瀬修

5月22~23日(土~日)長野県 戸隠・飯綱高原
参加：26名 天気：22=曇後雨、23=曇

カイツブリ アオサギ カルガモ ハチクマ トビ ノスリ タカsp. キジ キジバト ジュウイチ カッコウ ツツドリ ホトトギス アマツバメ アオゲラ アカゲラ コゲラ ツバメ イワツバメ キセキレイ サンショウクイ ヒヨドリ モズ ミソサザイ コルリ クロツグミ アカハラ ウグイス オオヨシキリ センダイムシクイ キクイタダキ キビタキ コサメビタキ エナガ コガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴジュウカラ キバシリ メジロ ホオジロ ノジコ アオジ クロジ カワラヒワ イカル ニュウナイズメ スズメ コムクドリ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (54種) 最近、天気予報が当たらないと感じているのは私だけだろうか？ この週末もところどころ変わっている。飯綱でバスを降りたら、ハルゼミの声。例年より



カワセミ (長谷川訓寿)

も大分早い。キビタキの声があちこちからする。早速、綺麗なオスに会えた。アカゲラ、ニュウナイズメ、カラ類と観察する。今年は結構当たり年かもしれない。時間をオーバーして植物園に移動。空模様が怪しく、遠くで雷鳴がし、とうとう降られてしまった。翌日、3時起床するも、雨音がする。もう一度寝なおして出直す。夕食時に見たい鳥に上げられたキバシリに遭遇。その後もコルリ、クロジ、アカハラ、アカゲラはじっくり見られた。営巣中のサンショウクイも観察できた。一方、ノジコやクロツグミは、声はすれども姿はちよっぴり。鳥によって大分差があったようだ。(菱沼一充)

5月23日(日) 狭山市 入間川
参加：29名 天気：曇後雨

カイツブリ カワウ ダイサギ コサギ カルガモ ツミ イカルチドリ キジバト カッコウ ヒメアマツバメ カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ オオヨシキリ セッカ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシブトガラス (28種) 入間川では時々ヒメアマツバメが飛ぶ。他では余り見られないのに、この鳥を見て大喜びをした人を見たことがない。たいがい高い空を飛んでいるし、地味だし……。今回は、低い高度を飛んだのでよく見られ、イワツバメやツバメも一緒に飛んだので違いもよく分かったと思うんだけど、やっぱり受けは余りよくなかった。(長谷部謙二)

6月6日(日) さいたま市 民家園周辺
参加：50名 天気：曇後雨

カワウ ゴイサギ アオサギ カルガモ チョウゲンボウ コジュケイ コチドリ キジバト カッコウ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (27種) 差間コースは足元が悪くコースを変更。ヘルシーロードは緑濃く、その中で見え隠れする鳥。早くも巣立った若鳥たちも空を飛んでいたが、何とか持ちこたえてくれたその空は、我慢の限界か、途中で本降りとなり、引き返し。梅雨入りしたこの日、27種で終

了。

(手塚正義)

6月13日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 41名 天気: 曇

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ トビ オオタカ キジ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (26種) 早朝まで降り続いた雨も上がり、ほっと一安心。明戸堰に向けて、梅の実がたわわに実った小径を抜けてスタートする。土手に出ると、電線にムクドリが数羽並んで止まっている。親子の識別をじっくりすることができた。途中、田んぼに出ると、ここでは遅い田植えが行われていた。あちらこちらでヒバリとセッカが鳴いて田園風景によく合っている。かたわらでは、キジが顔を出してくれた。最後にカワセミ、オオタカが出て、締めくくってくれた。鳥の数は少なかったが、さわやかな風の中での気持ちのいい探鳥会だった。

(中里裕一)

6月19日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

ボランティア: 8名

新井浩、海老原教子、大坂幸男、佐久間博文、志村佐治、藤野富代、増尾隆、松村禎夫

6月20日(日) さいたま市 三室地区

参加: 73名 天気: 曇後晴

アオサギ カルガモ オオタカ キジ コチドリ コアジサシ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 6月に入って、見沼代用水西縁にカルガモの親子が出現。なんとか探鳥会で見たいものだと思っていた。「驚かさないように」と福井さんが説明して出掛けた。すぐに可愛いカルガモの親子を見て全員が喜ぶ。開拓者に因んだ「井沢新田」「弥惣兵衛新田」というNPOの皆さんの植えた田んぼがあり、広々とした水田の上をツバメが飛んでいるのを見て、心がゆっくりした。(楠見邦博)

6月20日(日) 坂戸市 高麗川

参加: 39名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ダイサギ マガモ カルガモ トビ コジュケイ コチドリ イカルチドリ キジバト カッコウ ホトトギス カワセミ コゲラ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス オオヨシキリ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 集合場所の川角駅からホトトギスが見られ、城西大学グラウンド脇の河川には、イカルチドリ・コチドリが、天神橋手前の竹藪にウグイスが姿を見せてくれて、はじめの参加の人たちが大喜び。定番のカワセミも観察できた。鳥合わせの場所ではガビチョウの声が聞けた。(藤掛保司)

7月11日(日) 熊谷市 大麻生

参加: 20名 天気: 晴

カイツブリ カワウ ゴイサギ ダイサギ コサギ アオサギ マガモ カルガモ コガモ ハチクマ トビ オオタカ コジュケイ キジバト カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ ウグイス セッカ ホオジロ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (29種) 連日の猛暑も多少和らぎ、涼しささえ感じる探鳥会であった。途中まで数種の出現にとどまり、どうなるものかと思っていたが、明戸堰では、カワセミやカモ類、サギ類の水辺の鳥も多く見られた。「鳥合わせ」の途中ではハチクマが出現するなど、終わってみれば29種の確認。この時期としては、満足のできる、楽しい探鳥会であったのでは……。

(後藤康夫)



キンバト (大坂幸男)

連絡帳

●「決定版日本の探鳥地・首都圏編」出版

昨年 7 月号の本欄でご紹介した文一総合出版の探鳥地案内が発行されました。埼玉県内の分は、文一から相談があった時の役員会に出席していた役員を中心に、榎本秀和、海老原美夫、楠見邦博、小池一男、玉井正晴、橋口長和の 6 名が手分けして執筆。

B 5 版 136 ページ定価 1,600 円 + 税。引き続き北海道編、東北編など全国の分が出版される予定です。

●本部の執行体制が変わりました

6 月 30 日に開催された書面表決による理事会で、本部の執行部が一部変わりました。

会長：柳生博 副会長：佐藤仁志 専務理事：中村滝男 常務理事：海老原美夫・鈴木君子・吉田新

●渡良瀬貯水池干し上げに関する小委員会

7 月 2 日（金）午前 10 時から都内千代田区の（財）ダム水源地環境整備センターで渡良瀬貯水池の水位低下（いわゆる干し上げ）に関する鳥類の調査検討小委員会が開催され、委員の一人として藤掛保司支部長が出席。

同センター側の調査によれば、干し上げは夏の水道水のカビ臭減少に効果があること、今回の干し上げは特に鳥類に大きな影響を与えなかったと思われることなどが説明され、今後の調査方法などについて話し合いました。

●訃報

高麗川、西川越、柳瀬川などの探鳥会でリーダーとして活躍されていた池内輝明さん（富士見市）が、6 月 27 日に逝去されました。享年 64 歳。心からご冥福をお祈り申し上げます。

す。

●山階芳廬賞受賞記念講演とシンポジウム

日時：9 月 23 日（祝）13:00～16:10

会場：有楽町朝日ホール

受賞記念講演：森に棲む野鳥の生態及び保護
シンポジウム：ヤンバルクイナに明日はあるか
申込み・問い合わせ：（財）山階鳥類研究所「山階賞・シンポ」係 TEL 04-7182-1101 FAX 04-7182-1106

●事務局の予定

9 月 4 日（土）編集会議、研究部会議。（普及部会議は休みます。）

9 月 11 日（土）10 月号校正（午後 4 時から）。

9 月 18 日（土）袋づめの会（午後 3 時から）。

9 月 19 日（日）役員会。

●会員数は

8 月 1 日現在 2,433 人です。

活動報告

7 月 10 日（土）8 月号校正（海老原美夫、大坂幸男、喜多峻次、志村佐治、藤掛保司）。

7 月 16 日（金）本部常務会に出席（海老原美夫）。

7 月 18 日（日）役員会（司会：田邊八州雄、各部の報告・密漁対策連絡会に対する支部の担当者・カワウの現状に関する勉強会・その他）。

7 月 20 日（火）8 月号を発送（倉林宗太郎）。

編集後記

7 月にコマクサを見に草津白根山に行ってきました。可憐な花を愛でて、温泉で一泊。翌日、志賀高原を散策し、とある静かな池に立ち寄ったところ、アカハラが梢でさえずり、ルリビタキが飛び交っていました。志賀高原ではあちこちでルリビタキが鳴いていたのですが、そこはまさに特別でした。（藤原）

しらこぼと 2004 年 9 月号（第 245 号） 定価 100 円（会員の購読料は会費に含まれます）

発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 郵便振替 00190-3-121130

〒330-0064 さいたま市浦和区岸町 4 丁目 26 番 8 号 プリムローズ岸町 107 号

TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 <http://www.bekkoame.ne.jp/ro/wbsj-saitm/>

編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com

住所変更退会などの連絡先 〒151-0061 渋谷区初台 1-47-1 小田急西新宿ビル I 階

（財）日本野鳥の会 会員室会員グループ TEL 03-5358-3511 FAX 03-5358-3608

本誌掲載記事はホームページに転載されます。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。再生紙を使用しています。印刷 関東図書株式会社